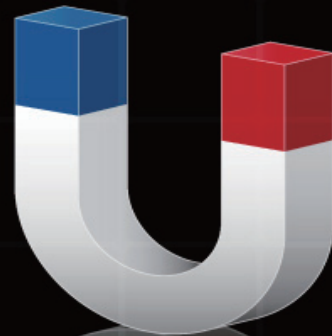


Composite Material,
In the World

ONLY

1



We are aiming at evolution from Only One manufacturer of bonded magnets to the world Only One of composite materials.

【射出・押出し成型用プラスチックマグネット材料】

- ・フェライト系コンパウンド
- ・ネオジム系等方性コンパウンド
- ・ネオジム系異方性コンパウンド
- ・サマコバ系異方性コンパウンド
- ・希土類+フェライト系コンパウンド



【射出成型用軟磁性プラスチック材料】

- ・ソフトフェライト系コンパウンド
- ・金属扁平粉及び金属系コンパウンド

株式会社 メイト

《営業部》

〒709-0514

岡山県和気郡和気町佐伯526-3

TEL : 0869-88-1888 / FAX : 0869-88-0204

《東京営業所》

〒116-0014

東京都荒川区東日暮里5-52-2神谷ビル301

TEL : 03-5810-6825 / FAX : 03-5810-6826

URL : <http://www.mate.co.jp/>

Copyright (c) 2009 MATE CO., LTD All right reserved.

編集後記

BM レポートには、9月の技術例会および12月のシンポジウムで「今後の軟磁性材料の応用・基礎と発展」「磁性材料およびその応用製品の最新開発動向」と題してご講演頂いた内容を、講師の許可を得て再掲載した。大変貴重なデータが詰まっているので、会議に参加できなかった方にも是非参考にして頂きたい。

協会の個人会員である西尾博明氏に「永久磁石試験方法の技術変遷」と題して特別寄稿頂いた。長編であるため今回はその1としてその一部をBMコラムに掲載し、次号にその2として残部を掲載する予定である。西尾氏は、東英工業(株)、TDK(株)、明治大学などで永久磁石の試験方法に永年携わり大きな成果を上げてこられた生き字引のような方である。本資料は永久磁石試験方法の歴史として大変貴重である。

昨年末に愛知製鋼(株)の関工場見学会が行われた。その記録は技術委員の野口健児氏にご寄稿頂きBMコラムに掲載した。関工場ではNd-Fe-Bの異方性粉をd-HDDR法で製造している。2020年に月産300tを目標として着々と設備増強が行われていること、また用途開発としても高速回転モータ用として期待が膨らむ話などを聞かせて頂いた。希土類異方性ボンド磁石の増産を期待している者の一人として大変頼もしく感じられる一日であった。忙しい中、見学会を企画して頂いた愛知製鋼(株)の皆様のご厚意に感謝申し上げます。

軟磁性材料研究会の一つのターゲットとして圧粉磁心の規格化・標準化部会活動が進められている。昔、1991年度から技術委員会で検討し始め、1994年度に実現した校正用磁石作製時を思い出す。その際には、同一試料を回送測定した結果、測定バラツキが予想外に大きいものとなったため、羽陽曲折を経て、会員各社の測定データの差異を少なくするため、それぞれの測定データの相関補正が確認できるようにすることを意図して作製することになった。現在までに約150セットを会員を中心に頒布しており有効利用頂いている。軟磁性材料関係でも何か役に立つ形が生まれることを期待する。

機関紙編集委員長

大森 賢次